

吉浦地区まちづくり計画書（令和元年度版）

☆活気・潤い・安全なまち☆



令和2年3月

吉浦まちづくり委員会

ごあいさつ

吉浦地区まちづくり計画書の策定から、10年余りの時がたち、実行されたもの、事業を継続中のもの、実行が困難となったものなどがございます。吉浦地区まちづくり計画について再度点検を行い、吉浦の課題や資源を再確認いたしました。

平成20年度に住民の皆様の協力を得て策定した「吉浦地区まちづくり計画」を基盤とし、必要なものは残し、新たなものを加え、役目を果たしたものは削除し、令和の吉浦にあった「吉浦地区まちづくり計画書」の策定を行いました。

今後も、わが町「吉浦」が、お子さんからお年寄りまで全ての住民にとって、ふれあいを大切に活気・潤いにあふれた安全で住みよい町になるよう、一層の努力をまいります。

まちづくり委員会の委員を始めとする住民の皆様の御協力と御参加を賜りますようお願い申し上げます。

吉浦まちづくり委員会
会長 尾茂田孝信



地区の概況

吉浦地区は昭和3年に呉市と合併し、東は川原石地区、西は天応地区、北は昭和地区と隣接し、南は瀬戸内海を望む。

東西に国道31号線やJR呉線が走り、地区の利便性の向上に役立っている。また、吉浦駅前から南北の道路となる県道278号焼山吉浦線が昭和地区に向けてのびている。

地区の令和元年9月末の人口は10,042人。世帯数は4,916世帯で、高齢化率は35.5%（65歳以上）に達しており、一人暮らしの高齢者世帯も増加しているように感じられる。

地区内には、「海上保安大学校」や「海上自衛隊貯油所」といった国の機関があり、通年型レジャー施設として「狩留賀海浜公園」を有している。

平たん地が少ない吉浦は、民家が山の中腹にまで軒を連ね、中心部に「吉浦八幡神社」や「水龍」の酒蔵など、歴史のある建物も多く残されている一方で、沿岸部には高層マンションなどの、近代的な建物や施設が見受けられる。

住民の多くは地縁団体である自治会に加入し、地域の活動に参加している。

自治会は八幡神社や各種団体と連携をはかって、「かに祭り」の伝統を受け継ぎ、自治会ごとの山車や太鼓が祭りを盛り上げている。

さらに、「町民体育祭」、「成人式」、「敬老会」や春と秋の「文化祭」など、様々な地域行事が開催されている。

交通安全推進については、呉市でも早くから取り組みを始め、「交通安全は家庭から」をスローガンに、現在も、子供たちの通学の安全を主眼に置いた交通安全街頭指導等を行うとともに、地区内の安心できる環境については、日常の子供の安全確保や地域防犯の向上の為、自治会により、地域の防犯パトロールを実施している。

また、各自治会において自主防災組織を組織し、大規模な災害等に対応する為、全町を挙げて吉浦地区防災訓練を以前から実施していた。しかし、平成30年7月豪雨災害により、吉浦地区においても、多大な被害を受け、緊急時の地域連帯の重要性を再認識し、より安心・安全なまちづくりを目指して、防災訓練の充実が図られている。



現状と課題

現在、吉浦を取り巻く環境は、少子高齢化を始め情報化社会の発展によって、地域社会において、人間関係が希薄化の傾向にある。特にコミュニティでは、地域活動や祭事等、低迷化している所も見受けられる。今後、コミュニティを維持していく為にも、相互扶助と助け合いの精神がますます重要になってきている。

平成30年7月には、災害（平成30年7月豪雨）にみまわれ、吉浦地区でも多くの家屋が被害を受け、3人の方の尊い命が失われた。

こうした災害時など、公共によるサービスだけでは対応できない、地域社会によるインフォーマルなサービスの対応も求められていると考えられる。

たとえば、災害時の避難の手助けであるとか、児童生徒の安全の確保など、現在の団体の枠組みのみでは対応しきれないものが発生している、こうした場合、自助・共助・公助の考え方にもとづく行動が必要となっている。

災害の場合、公助は事前の注意喚起や何かあった場合の情報収集などは可能であるが、今まさに避難を必要としている場合など、即時の対応は困難なこともある。

そのような時のために、自助（自分で自分を守る）の学習、続いて、共助（近隣での助け合い）を行える体制を確立することが大事である。

とはいえ、働く世代の町外での就労が普通の状態となり、昼間の高齢化率は高いものになっており、各団体も、構成員が高齢化しているので、早急な後継者やボランティアの育成が必要となっている。

また、共助を行うに当たっては、地域内での結びつきが重要となってくる。

こうした環境を整備するため、地域行事の活性化を図り、多くの方に行事に参加してもらい、顔が見える関係を保つことで何かの時に即時に対応できるよう、基盤の強い吉浦を構築していかなければならない。



将来像 (まちづくりのキャッチフレーズ)

☆活気・潤い・安全なまち☆

委員会では、当初決定したまちづくりの将来像と同じく、☆活気・潤い・安全なまち☆のキャッチフレーズの下、今後もこれを基礎に伝統を大切に、安全で活気と潤いにあふれたまちづくりを、自治会連合会や社会福祉協議会など、地元の各種団体と連携しながら進めてまいります。

活動方針

課題を解決する為、3つの活動方針の下、まちづくりを進めてまいります。

○賑わいと活気のあるまちづくり

伝統ある行事の発展や、他地区にない国の施設との連携を通じて、活力あるまちづくりを進めます。

○安らぎと潤いのあるまちづくり

郷土の歴史や史跡を大切に、文化行事等を通じて世代間交流を図り、潤いあふれるまちづくりを進めます。

○安心で安全なまちづくり

防災訓練などにより地域の結束を高め、子供から高齢者まで、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。



事業計画

○賑わいと活気のあるまちづくり

・地域の伝統行事の継承

(吉浦カニ祭りをはじめとした、吉浦が他地区に誇れる吉浦の伝統行事を継承し、PRすることで賑わいを創出する)

・「ふれあい盆踊りと土曜日」の開催

(吉浦の盆踊りの保存・継承を目的とした、盆踊り大会と土曜市を吉浦盆踊り保存会・商店連盟ほか各種団体の協力の下、賑わいの創出を図る)

・「町民体育祭」、「ソフトボール大会」、「ソフトバレーボール大会」や「マラソン大会」の実施

(子供から高齢者まで、いろいろな世代の方が参加できる体育行事となるよう、工夫をして盛り上げを図る)

・吉浦地区成人式の開催

(地域で成人を祝い、地域の方々には、普段交流の少ない若い人との交流を図る)

- ・国の機関（施設）との地域交流事業の創出

（海上保安大学校や海上自衛隊貯油所の地域行事での施設利用や、学生、職員の地元行事への参加交流を図る）

- ・その他、賑わいと活気のあるまちづくりに必要な事業を行う



○安らぎと潤いのあるまちづくり

- ・文化行事の開催

（地区で活動する文化団体等の発表の場として吉浦地区文化祭を開催するとともに、小中学生を対象とした「詩歌創作大会」や、幼児を対象とした「たのしい音楽会」を開催し、吉浦の子供たちが文化・芸術に触れる機会を創出する）

- ・郷土の名所の伝承

（「吉浦の史跡マップ」を活用し、吉浦の史跡・名所を後世に伝えていく）

- ・児童の健全育成

（ドッジボール大会等の行事を開催し、児童の健全育成を推進する）

- ・子育てサロンの開催

（子供たちや保護者の方と、手遊びや簡単な体操をしながら、交流を図り、楽しく子育てを行う）

- ・絵本会の開催

（保育園、幼稚園、小学校等で、絵本会を開催し、心豊かな子供の育成に努める）

- ・高齢者との交流活動や健康に関する行事の開催

（いきいきサロン等を開催し、高齢者の方にゲームやおしゃべりを楽しんでもらう事で、交流を深め、介護予防を図る。また、ウォーキング大会、老人福祉大会及び健康教室を開催し、住民全体の心と体の健康増進を図る）

- ・駅前花壇の美化活動

（地域で協力して、駅前花壇の美化を推進する）

- ・まちづくり活動の拠点となる施設等の整備を行う

- ・その他、安らぎと潤いのあるまちづくりに必要な事業を行う



○安心で安全なまちづくり

- ・「地域防災訓練」の実施

（呉市消防局・呉市消防団・自治会が参加し、消火訓練や心肺蘇生、負傷者の移送などを行い、日赤奉仕団吉浦分団は、避難者への炊き出しを行う）

- ・交通安全街頭指導

(子供たちの通学の安全を確保するため、交通安全指導を、横断歩道・交差点など通学路上の危険な場所で重点的に行う)

- ・防犯パトロールの実施

(子供たちの安全な登下校を見守り、積極的に声掛けを行う)

- ・防災上問題のある場所の確認と危険箇所の改善

(各自治会を中心に、避難所までの安全なルートを確認するとともに、災害の要因となりそうな場所に注意し、行政に情報提供する また、地域住民の力で改善可能なものは、地元団体が独自に改修を実施する)

- ・吉浦駅の再整備

(JR吉浦駅のエレベーターの設置を含め、駅周辺のユニバーサルデザイン化の推進を関係機関に要望する)

- ・ゴミのないまちを作る

(今後、川掃除も含め吉浦町内の一斉清掃実施を検討するとともに、現在も実施されているゴミステーション周辺の清掃を継続し、ゴミ出しルールを徹底し、町の美化とカラスやイノシシ対策の一助とする)

- ・防災、防犯設備の設置

(防災井戸の整備、既存井戸への手押しポンプの設置、防犯カメラ等の設置について、自治会連合会等地域の各種団体と連携して推進する)

- ・その他、安心で安全なまちづくりに必要な事業を行う

新たに策定された事業計画を基に、各種団体行事と併せて吉浦のまちづくりを進めて参ります。

皆様の御協力を重ねてお願い申し上げます。



まちづくり計画経緯（参考）

平成20年10月 9日	広島国際大学の協力を得て「まち歩き」を行い、自分達の住んでいる町「吉浦」を知る（狭い路地も歩くことで、普段気が付かないことに気付く）
平成20年10月25日	第1回ワークショップ開催 ～地域の資源や魅力・課題や問題点を出し合う（良いところはどこか？逆に困っている事はないか？皆で意見を出す）
平成20年11月12日	第1回ワークショップ成果の取りまとめを、参加者へ送付
平成20年11月22日	第2回ワークショップ開催 ～前回の結果を基に、これからの吉浦地区を考える。 （どうすれば「吉浦」が元気で住みよい町になるのか？自分達で何か出来る事はないか？）
平成21年 3月23日	役員会を開催し、計画案の検討を行う
平成21年 3月27日	これまでの経緯を「吉浦ふれあい事業推進委員会」で報告し、まちづくり計画書を作成する
平成23年	「吉浦ふれあい事業推進委員会」を「吉浦まちづくり委員会」に改称
平成24年 3月	まちづくり計画の進捗状況を確認し、ダイジェスト版の発行
平成26年 5月30日	まちづくり計画一部改訂
令和元年 5月30日 ～令和元年11月17日	まちづくり計画策定委員会を7回開催
令和 2年 3月10日	まちづくり委員会の承認を得て、過去のまちづくり計画を尊重しつつ、新たなまちづくり計画を策定